

# 2026年度

# 第1四半期決算

期間：2025年10月1日～12月31日

2026年2月12日、ドイツ・ミュンヘン

## 2026年度は好調なスタートー見通しを上方修正

「第1四半期の堅調な業績は、当社の戦略が着実に成果を上げていることを示しています。シーメンスは成長市場において非常に有利なポジションにあります。人工知能(AI)は当社事業にとって強力な成長ドライバーです。世界トップクラスのパートナーと共に、中核産業分野における産業用AIの拡大を進めております。設計、開発、製品、運用にAIを深く統合することで、お客様に目に見える価値を提供しています」と、シーメンスAG代表取締役社長兼CEOのローランド・ブッシュCEOは述べています。

また、シーメンスAG CFOのラルフ・P・トーマスは次のように述べています。

「強力なオペレーティング・パフォーマンスが、第1四半期の高い収益性につながりました。当社は引き続き戦略を厳格に実行し、加速させている自社株買いプログラムは株主価値の持続的な創出に寄与しております」

- 第1四半期の受注高は、為替換算およびポートフォリオ効果を除いた比較可能ベースで10%増加し、大半のインダストリー事業で2桁の増加を記録しました。比較可能ベースの売上高は8%増加し、すべてのインダストリー事業における成長が含まれます。
- 名目ベースでは受注高が7%増の214億ユーロ、売上高は4%増の191億ユーロとなりました。出荷額に対する受注額の比率（以下、BBレシオ）は1.12でした。
- インダストリー事業の利益は29億ユーロに増加し、利益率は15.6%となりました。これはデジタルインダストリーズ部門とスマートインフラストラクチャー部門における大幅な改善が牽引したものです。
- 純利益は22億ユーロと堅調に推移しました。2025年度第1四半期の純利益39億ユーロには、Innomotics売却による21億ユーロの利益(税引後)が寄与していました。当四半期の1株当たり利益（EPS）は2.60ユーロ、購入価格配分会計前のEPS（PPAあたりのEPS）は2.80ユーロでした。
- 継続事業および非継続事業からのフリーキャッシュフローは7億ユーロでした。

**SIEMENS**

## シーメンス

(単位：100万ユーロ)	第1四半期		増減%	
	2026年度	2025年度	実績	比較
受注	21,371	20,065	7%	10%
売上	19,139	18,353	4%	8%
利益 (Adjusted EBITA)				
インダストリービジネス	2,904	2,517	15%	
内：退職手当	(67)	(78)		
利益率 (Adjusted EBITA)				
インダストリービジネス	15.6%	14.1%		
退職手当を除く	15.9%	14.6%		
継続事業からの利益				
	2,225	1,801	24%	
内：退職手当	(77)	(83)		
非継続事業からの利益、 (税控除後)				
	(3)	2,067	該当なし	
純利益	2,222	3,868	(43)%	
基本1株あたり利益 (単位：ユーロ)	2.60	4.71	(45)%	
PPA前のEPS (単位：ユーロ)	2.80	4.86	(42)%	
フリーキャッシュフロー (継続事業と非継続事業)				
	677	1,584	(57)%	
キャッシュ・ コンバージョン・レート	0.30	0.41	(27)%	
ROCE (継続事業と非継続事業)	13.5%	29.7%		

- 受注の伸びは、過去最高の受注を記録したスマートインフラストラクチャー部門が牽引し、デジタルインダストリーズ部門の大幅な成長とモビリティ部門の著しい増加がこれを支えました。
- 売上高は、デジタルインダストリーズ部門における2桁の増収を含め、インダストリー事業全体で幅広く成長しました。なお、ソフトウェア事業とオートメーション事業の両方が力強い成長に貢献しました
- 通貨換算の影響により、受注高と売上高の伸びはそれぞれ5%ポイント押し下げられました。一方、ポートフォリオ取引により、受注高と売上高の伸びはそれぞれ1%ポイント押し上げられました
- インダストリー事業の利益：デジタルインダストリーズ部門は主にオートメーションに牽引され、大幅な利益増加を記録しました。スマートインフラストラクチャー部門は引き続き優れた業績を維持し、利益は大幅に増加しました。インダストリー事業の利益率は為替の影響を受け、デジタルインダストリーズ部門が最も大きな影響を受けました
- 純利益は堅調でした。2025年度第1四半期は、Innomoticsの売却による21億ユーロの利益（税引後）が寄与していました
- フリーキャッシュフローの減少は、主にインダストリー事業によるもので、前年同期の17億ユーロに対し、当期は10億ユーロとなりました。主な要因は、モビリティプロジェクトにおける支払時期の影響を含む運転資本の積み増しです。また、インダストリー事業以外では、放射性廃棄物最終処分に関する義務の決済に関連して4億ユーロの支払いが発生しました。
- 2025年12月31日現在の年金および同様の債務への引当金は7億ユーロで、2025年9月30日時点と同様の低水準を維持しています。
- 使用資本利益率 (ROCE) は、純利益の減少と平均使用資本の大幅な増加により低下しました。後者は主に、AltairおよびDotmaticsの買収に関連するものです。

## 【参考資料】

本資料はシーメンスAG（ドイツ、ミュンヘン）が2026年2月12日（現地時間）に発表したプレスリリースを日本語に抄訳したものです。本資料の正式言語はドイツ語および英語であり、その内容および解釈についてはドイツ語、英語が優先します。原文プレスリリースおよび関連資料は以下の URL よりご覧いただけます（英文）。

<https://press.siemens.com/global/en/pressrelease/earnings-release-and-financial-results-q1-fy-2026>

## 報道機関からのお問い合わせ先:

シーメンス株式会社 広報代理

株式会社プラップジャパン 佐藤、藤井

E-mail: [siemens@prap.co.jp](mailto:siemens@prap.co.jp)